

# 上越地域米の品質向上に向け栽培管理を徹底しよう！

## 1 稲の生育状況と今後の水管理

- (1) 稲の生育状況
- 管内の田植えの盛期は平年並の5月16日頃。
  - 植え傷みは少なく、初期生育は概ね良好。
- (2) 今後の水管理
- 活着後は浅水とし、水温の上昇を図って分けつの発生を促す。
  - 低温や風の強い日はやや深水管理にし、田面が出ないように湛水を徹底する。
  - 水温が高くなるとワキの発生が急激に多くなるため、ワキが発生したら夜間落水を行い、根腐れ・生育停滞を防止する。

## 2 中干し・溝切りの実施方法

(1) 主な効果

- ◆ 過剰生育抑制による適正生育量の確保
- ◆ 下位節間の伸長を抑え、倒伏を軽減
- ◆ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ◆ 収穫作業に向けた地耐力の確保
- ◆ 溝の設置により迅速なかん水・落水が可能



適正な籾数確保 (= 品質の確保) につながる！！

- (2) 実施時期 ～ 田植後25日をめやすに生育を確認し、遅れないよう中干しを開始 ～
- 目標穂数の7～8割の茎数（生育過剰場合は6～7割）を確保したら落水し、中干しを開始する。

表 コシヒカリの中干し開始のめやす

地域	1株当たり茎数のめやす(本/株)			目標穂数 (本/㎡)	開始時期 のめやす
	50株植え	60株植え	70株植え		
平坦地	18	15	—	350	6月10日
中山間地	—	14	12	320	6月15日

(3) 実施方法

〈中干し〉

- 田面に小さなヒビ(幅1cm程度)が入り、軽く足跡がつく程度までしっかり行う。
- 早生は6月末頃、コシヒカリは7月5日頃、出穂1か月前には中干しを終了する。

〈溝切り〉

- 溝の間隔は8～10条おき(間隔は2.5m程度)、深さは10cm以上とし各溝末端を排水溝につなげる。



【田面に小ヒビが入った状態】

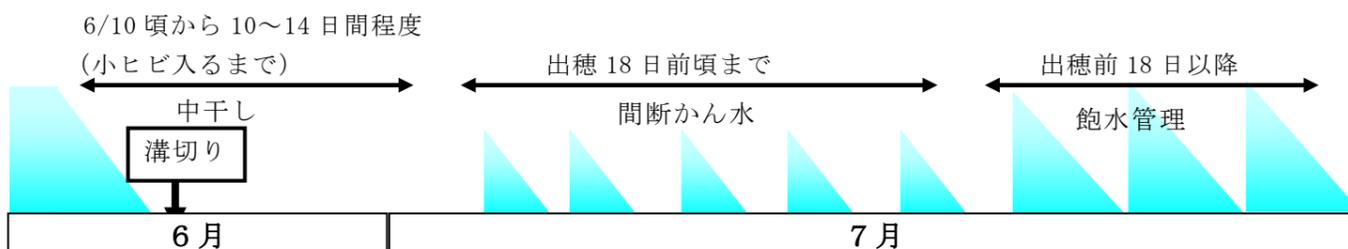


【溝の末端を排水口に接続した状態】

## 3 中干し・溝切り後の栽培管理

(1) 水管理

- 中干し終了後は、うわ根の発根促進や根の健全化のため浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行する。



【中干し以降の水管理のイメージ(コシヒカリ)】

(2) 病虫害防除

- 多発地や前年発生ほ場のコシヒカリ BL などで、田植時に予防剤を施用していない場合は、6月中旬までに本田に予防剤を散布する。また、農道・畦畔などがカメムシの生息地となるので草刈りを徹底する。

お問い合わせ先：上越農業普及指導センター(作物担当) TEL 025-526-9406、JAえちご上越営農企画課 TEL 025-527-2050

～水稻の収量向上・コスト削減で所得確保しましょう。園芸導入で所得確保しましょう～